

岡山県立

博物館だより

83号

■ 特別展を終えて ……②③

■ 教育普及事業 ……⑥⑦

■ 交流展を終えて ……④

■ 博物館 NEWS ……⑧

■ 企画展を終えて ……⑤

■ INFORMATION ……⑧



〈特別展「サムライアーマー甲冑
—岡山ゆかりの名品と変わり兜—」より〉
滋賀県指定有形文化財
朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胴具足 井伊直弼所用
(彦根城博物館蔵)



〈特別展「岡山ゆかりの肖像」より〉
重要文化財
絹本着色 小早川秀秋像 弓箴善疆賛
(京都市 高台寺蔵)



〈企画展「報恩大師信仰と寺院縁起
—四十八ヶ寺を中心に—」より〉
木造 俱利伽羅龍王像
(岡山市 明王寺蔵)



〈交流展「伊予の戦国時代」より〉
河野通直(牛福)感状 天正7(1579)年 (愛媛県歴史文化博物館蔵)

特別展「サムライアーマー甲冑 —岡山ゆかりの名品と変わり兜—」

会期：平成30年5月25日(金)～7月8日(日)



展覧会広報チラシ

日本の甲冑は、武士が合戦において身を守るためのものであると同時に、自らの活躍と存在をアピールするものでもありました。そのため、時代とともに変わる戦い方や新たな武器の登場に対応するなどの機能性はもちろんのこと、人の目を引くことも求められました。

制作にあたっては、当時の工芸技術の粋が集められています。

近年、戦国武将ブームの影響もあり、武士が身にまとった甲冑への関心も高まっています。本展では、岡山ゆかりの名品と奇抜なデザインの変わり兜の優品を、2章に分けて計65件紹介しました。

第1章「岡山ゆかりの甲冑」では、国宝の赤韋威鎧（館蔵）や重要文化財の色々威甲冑（瀬戸内市 豊原北島神社蔵）といった岡山県に伝来する代表的な甲冑とともに、岡山ゆかりの武士が着用した甲冑を紹介しました。山田方谷が所持したと伝わる茶塗雨龍蒔絵紺糸威二枚胴具足（個人蔵）は、このたびが岡山県内初公開となりました。

第2章「変わり兜」では、さまざまな意匠の兜を紹介しました。戦国時代（15世紀後半～16世紀）になると、武将たちは自らの武勇を誇示するため、奇抜な兜をかぶり戦場に立ちます。その造形には、現代の私たちも驚かされます。

「赤備え」で知られる井伊家の当世具足は、兜の側面に長さ約80cmを測る大天衝を飾り、展示室でも一際目を引く存在でした。その他には、猿、富士山、鯢、蟹などを意匠に取り入れたものや、眼鏡を取り付けたものなど、多種多様な兜をご紹介しました。

関連行事

会期中には、関連行事として記念講演会、正子公也戦国武将画パネル展、復元甲冑の着用体験会を開催しました。記念講演会では、西岡文夫氏（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 副会長）に「日本の甲冑 その構造と特色—甲冑師の視点から—」、須藤茂樹氏（四国大学文学部 教授）に「戦国武将と変わり兜」という演題で、ご講演いただきました。また、学芸員による展示解説を3回行いました。



展示解説

この他、岡山カルチャーゾーン加盟3館連携事業「おかやまサムライめぐり」と銘打ち、同時期に企画展を開催する岡山城天守閣と林原美術館と共同で広報活動を行いました。また、3館を展示担当者とともに巡るリレー展示解説を行い、たくさんの方にご参加いただきました。

展覧会を終えて

本展は、全国各地の博物館と美術館、そして、ご所蔵者の方の協力が得られ、充実した内容となりました。展示会場にはお子様の姿も多く、幅広い世代の方にお楽しみいただける展覧会となったように思います。

会期中には西日本豪雨があり、その影響による臨時休館もありましたが、8,697の方にご来館いただきました。（学芸課）



展示室の様子

特別展「岡山ゆかりの肖像」

会期：平成30年10月19日(金)～11月25日(日)



展覧会広報チラシ

大名や武将の肖像を取り上げ、残された情報を丁寧に読み取り、人物の最新研究とともに紹介しました。

展覧会の構成

第1章「下克上の世と戦国武将」では、戦国大名の先駆けとよばれる北条早雲から、戦国時代を終結させた豊臣秀吉と、その元で活躍した宇喜多秀家、小早川秀秋までを取り上げました。

なかでも重要文化財「絹本着色小早川秀秋像」(京都市 高台寺蔵)は注目を集めました。幼さが残る、不安げな表情は、戦国武将の肖像としては特異です。しかし、隣に展示した重要文化財「絹本着色豊臣秀吉像」と比べてみると、両作品に描かれた背景がとてもよく似ていることに気が付きます。実は、秀秋は3歳から12歳まで秀吉の養子として、おね(秀吉の正室、北政所)に育てられました。秀秋が20歳の若さでこの世を去った時、彼女は秀吉の菩提を弔う高台寺で一緒に供養するため、この肖像を描かせました。この作品は、ひ弱な戦国武将の顔などではなく、秀吉と同じ背景に描いた幼いわが子の姿だと考えられるのです。

第2章「近世岡山の大名」では、江戸時代に現在の岡山県内にあった藩や天領などを治めた大名等の肖像画を中心に展示しました。ここでは閑谷学校の中にある閑谷神社の池田光政像が注目を集めました。神社のご神体でもあるこの像は、金銅製で普段は社殿の中の厨子に鍵をかけて収められています。美しい金色の輝きはそうした管理のおかげもあったでしょう。露出展示とし、全方向から姿を見てもらいました。なお、同像が閑谷の地を離れて公開されるのは50年ぶりのことでした。

肖像とは、モデルとなった人物の姿を絵画や彫刻等で表現したものです。そこからは人物の身体的特徴だけでなく、制作者の意図や時代背景など、様々な情報を知ることができます。

本展覧会では、戦国時代から江戸時代までに活躍した岡山ゆかりの大名

第3章「浮世絵に描かれた肖像」では、備中高松城の水攻めを題材にした「赤松水攻之図・防戦之図」に描かれた豊臣秀吉や、武者絵として描かれた宇喜多秀家や池田信輝の浮世絵を紹介しました。

関連行事

関連行事としては、2つの記念講演会とワークショップを実施しました。

「小早川秀秋の実像に迫る」と題した黒田基樹氏(駿河台大学 副学長)の講演では、秀秋が家康の嚇し鉄砲で東軍に



黒田基樹氏

寝返ったという逸話が江戸時代の創作であり、実際は前日には態度を明らかにし、当日は開戦時から東軍方として参戦していた可能性が高いという研究成果をお話いただきました。斎藤夏来氏(名古屋大学大学院人文科学研究科 教授)には、「画像賛が語る小早川氏」という演題で、展覧会初出品となった京都市黄梅院の「絹本着色 小早川隆景像」等をもとに、画像賛から分かる当時の人間関係などをお話いただきました。



斎藤夏来氏



コラージュ de 肖像画

ワークショップ「コラージュ de 肖像画」は、イラストレーターでデザイナーのタケシマレイコさんにアドバイスをいただきながら肖像画作りを行いました。肖像画に描かれる畳や扇、着物などの決まり事を踏まえた上で、自分好みの肖像画をコラージュして作りました。親子での参加が多く家族で楽しんでもらえました。

展覧会を終えて

本展覧会は、肖像に特化したものでしたから作品を比べて違いや特徴を楽しむことができたと思います。また、岡山ゆかりの武将や大名の肖像が一堂に会し、各地の領主を知ってもらえる機会にもなったと思います。このことが地元の歴史への興味につながることであれば幸いです。期間中6,393人の方にご来館いただきました。(学芸課長 竹原伸之)

交流展「伊予の戦国時代」

会期:平成31年1月18日(金)～2月17日(日)



展覧会広報チラシ

将河野氏を中心に特集しました。

展覧会の構成

まず、展覧会の中心となった河野氏は、古代から武士団を形成し、現在の愛媛県中部を中心に勢力を誇った一族です。南北朝時代には、足利尊氏のもとで活躍し、歴代の室町将軍とも良好な関係を築きました。戦国時代には、国内の武将との争いや、大内氏など大名の侵攻の対応に迫られますが、約400年に渡って伊予の中でも有力な位置にある名族でした。



宇和島市指定文化財 紺糸威二枚胴具足 伝土居清良所用
(宇和島市教育委員会蔵)

岡山県立博物館では、平成18年度から、中国・四国地方の県と交流事業を行っており、これまでに香川県・島根県・高知県・鳥取県と続けてまいりました。本年度からは、愛媛県との交流を始め、初年度は、「伊予の戦国時代」と題して、伊予国内で活躍した戦国武

外とも活発に交流を行っていたと考えられることを紹介しました。

伊予の戦国時代に活躍した武将の中に、「日本最大の海賊」と呼ばれる村上海賊がいました。彼らは瀬戸内海に設けた関を通る船に対して、通行料を取るかわりに安全な航行を保障しました。ここでは過所旗と呼ばれる通行許可書や、当時の彼らの動向が分かる古文書などを展示しました。



過所旗(複製) 今治市村上水軍博物館蔵
原品:重要文化財 天正9(1581)年 (個人蔵)

関連行事

記念講演会として、山内譲氏(元松山大学 教授)からは、「戦国時代の村上海賊と瀬戸内海」について、西尾和美氏(ノートルダム清心女子大学 教授)からは「戦国期伊予河野氏と女性たち」について、最新の研究成果をお話しいただきました。また、「ボランティアガイド」では、友の会ボランティア21人が、会場で希望者にガイドを行い、「展示内容がよく分かった」と好評を得ました。



山内譲氏



西尾和美氏

展覧会を終えて

「はじめて知る武将もいて、戦国時代の愛媛県がいかに群雄割拠だったのかわかった」、「村上海賊は掟の中で通行料や警固料を徴収していた海の民であったということが理解できた」などの感想が寄せられました。本展覧会を通じて、愛媛県の歴史への興味が深まり、岡山と愛媛の文化交流がますます活発になることを期待しています。期間中4,282人の方にご来館いただきました。(学芸員 野田繭子)

企画展「報恩大師信仰と寺院縁起 ―四十八ヶ寺を中心に―」

会期：平成30年9月13日(木)～10月14日(日)



展覧会広報チラシ

備前国四十八ヶ寺は、平安時代以前にその基礎ができていたとみられる古刹で、江戸時代以降、「報恩大師」という高僧が孝謙天皇の勅を賜り開創した」という伝承を共有してきました。天台宗、真言宗、日蓮宗の寺院が混在し、三十八ヶ寺が現存しています。宗派も

本尊も異なるさまざまな寺院が結集し、人々に知られるようになったのには、どのような歴史があるのでしょうか。本展覧会では、各寺院に伝わる縁起（寺の開創や、その後の出来事などを記したもの）を紹介し、今日まで伝えられている宝物を通して、報恩大師伝承の広まりや信仰の特徴についてご紹介しました。

展示作品88件のうち23件が国・県・市町村指定の文化財、そのほかの約半数が初公開でした。所蔵者の皆様に多くの便宜を図っていただき実現した展示でもあります。貴重な

宝物を自ら搬入して下さったり、お知り合いの寺院にお声かけくださったり。短い期間、しかも2週連続で週末台風到来、臨時閉館があったにもかかわらず5,773人の方をお迎えすることができました。図録を作ってほしかったというご意見も多く寄せられ、展覧会担当者としてもこの点は残念に思います。

会期中9月22日（土）に開催した徳永誓子氏（岡山大学大学院 准教授）による記念講演会も盛況で、満席となりました。「備前四十八ヶ寺以前―中世吉備の寺院を考える―」と題した御講義は、中世の地方寺院の組織や規模について認識を新たにす興味深いものでした。

（統括学芸員 中田利枝子）



記念講演会



初公開 木造 俱利迦羅龍王像
（岡山市 明王寺蔵）



初公開(秘仏) 岡山県指定重要文化財
木造 千手観音菩薩坐像（岡山市 慈眼院蔵）



初公開 瀬戸内市指定重要文化財
木造 夜叉神形立像（瀬戸内市 大賀島寺蔵）

教育普及事業の概要

平成30年度も児童・生徒・一般の方々を対象にさまざまな教育普及事業を実施しました。

■館内授業・出前授業



館内授業

当館で実物資料をもとに体験したり、展示見学をしたりする「館内授業」と、学芸員が実物資料を持参して学校で実施する「出前授業」は今年度も好評で、あわせて79校にご利用いただきました。

「館内授業」では、展覧会にあわせての見学や、

テーマに基づいた授業のほかバックヤードの見学も人気でした。また、子どもたちが展示を自由に見て回り、お気に入りの文化財を一点見つける時間を設けるなど、文化財に興味を持てるような工夫もしました。

「出前授業」では、「昔の暮らし」など民俗分野の授業依頼が多く寄せられました。



出前授業

■学芸員による展示解説

土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展示資料の由来や見どころ、歴史的背景などを分かりやすく説明します。毎回、展示解説を楽しみにされているお客様もおられ、展覧会の内容により関心を持っていただきました。



企画展「報恩大師信仰と寺院縁起—四十八ヶ寺を中心に—」展示解説



特別展「岡山ゆかりの肖像」展示解説

■中学生職場体験



掛け軸の取り扱い

8校23人の中学生が参加し、文化財の取り扱いや、受付・看視、そして広報活動などの博物館業務を体験しました。本物の文化財に触れた感動とともに、管理することの大変さや後世に伝えていくことの大切さを学んでくれたことと思います。



撮影体験



土器の計測体験

■博物館実習



美術資料の取り扱い

学芸員資格の取得をめざす県内外の大学生16人が、当館での実習に参加しました。台風の影響などにより、やや変則的な日程となりましたが、文化財の取り扱いや博物館行事の支援、展示替えの体験などに取り組みました。



文化財の写真撮影

■吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も10年目を迎え、2日間の日程で実施しました。

参加校は、高梁市玉川小学校（11人）、赤磐市立軽部小学校（53人）、笠岡市立石相小学校（84人）でした。

1日目は、博物館で実物資料に触れながら、各学校周辺地域の歴史を学びました。あわせて展示室も見学しました。



展示室見学

2日目は、1日目の学習を終えて、さらに自分たちで調べたことや考えたこと等、模造紙や画用紙にまとめ、発表会を行いました。

今年度の事業の様子は、報告集にまとめて県内のすべての小学校に配布しています。



館内授業



学習発表

■博物館講座

「岡山の歴史と文化」をテーマに、スタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。

前者は、学芸員が平素の研究成果を博物館資料に基づいてお話するもので、全4講座（6月火曜・木曜開講）を76

人が受講しました。後者は、各研究分野の第一人者による講座で、全4講座（7月～10月）を112人が受講しました。



スタンダードコース



スペシャルコース

■ジュニア学芸員講座



アートカードを使用した鑑賞体験



刀剣の取り扱い

「ジュニア学芸員講座」では、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験します。今年度は8月1日（水）から3日（金）の計3日間にわたり開催し、22人が参加しました。

当館では書画、歴史資料、陶磁器、刀剣、民俗資料などの取り扱いを、岡山県立美術館では美術鑑賞について学びました。また、最終日には、参加者自らが講座の様子をまとめた報告集を作成しました。



ジュニア学芸員講座報告集

寄贈資料の紹介

今年度も、当館に貴重な文化財をご寄贈いただきました。一部ですがご紹介します。
ご寄贈者の趣旨に沿い、広く皆様に還元できるよう、保存と活用につとめて参ります。

美術資料

- ・藤本鉄石山水帖

武具など工芸品

- ・脇差 無銘
- ・刀 無銘
- ・薙刀 無銘 拵付



(学芸課長 竹原伸之)



藤本鉄石山水帖

INFORMATION

●●●●● 平成31年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「岡山の日蓮法華宗」

会期 2019年10月11日(金)～11月10日(日)

企画展 「物見遊山 一江戸の旅模様一」

会期 2019年8月29日(木)～10月6日(日)

特別展 「備前のある場所 一取り合わせの魅力一」

会期 2020年2月14日(金)～3月31日(火)

交流展 岡山・愛媛文化交流事業Ⅱ

「正岡子規と仲間たち」

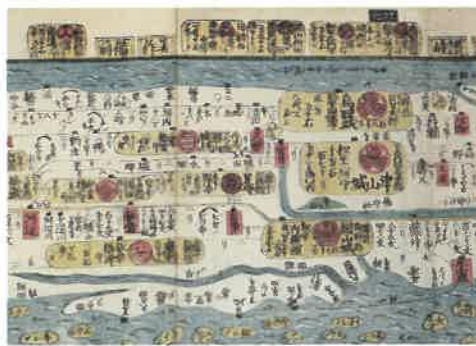
会期 2020年1月1日(水)～2月9日(日)



絹本着色 絵曼荼羅
(吉備中央町 妙本寺蔵)



高蒔絵大甕 木地釣瓶水指(個人蔵)
備前焼 茶碗 銘只今(岡山後楽園蔵)



改訂増補大日本国順路明細記大成(部分)
(岡山県立博物館蔵)



正岡子規
(画像提供:松山市立子規記念博物館)

岡山県立博物館だより 第83号

発行日/平成31年3月1日

発行者/岡山県立博物館 館長 山田 寛人

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。